



Fig. 1 東北新幹線上野駅のタイル(1984年3月開業)



Fig. 2 りんかい線 東京テレポート駅の壁面 (1996年3月開業)



Fig. 4 京急空港線 羽田空港国際線ターミナル駅通路の案内サイン (2019年1月設置)



Fig. 3 西武池袋線 江古田駅のトリックアートコンビニ (2018年9月開店)



Fig. 5 反対側から見た案内サイン

「画像からくり」

第45回 駅で出会う錯視

45. Optical Illusion in Railway Stations

桑山哲郎

錯視の人気は、ますます高くなっている。否定的な評価が強かった時代に比較すると大変喜ばしいのだが、錯視についての知識の普及はまだ十分ではないと思う。今回は、身近な鉄道の駅で出会う錯視を、年代順に取り上げる。

まず Fig. 1 をご覧いただきたい。駅のホームの風景だが、タイルの境界は部分的に曲がって見える。定規を画面に当ててみれば、すべての水平方向の線が直線であることは確かめられるが、改めてしっかり見ても、やはり曲がって見える。東北新幹線の上野駅上りホームの風景で、3か所以上で見つけることができる。私は、東京駅に向かう新幹線の車内から度々目にしていたのだが、数年前、初めて真面目に撮影した。この曲がり、は「カフェウォール錯視」によるものである。新幹線のこの駅が開業したのは1984年で、それ以来多くの人が目にしてはいるはずなのだが、先行の報告を見つけることができなかつた。ぜひ多くの方に知っていただきたい事柄である。

続いて Fig. 2 をご覧いただきたい。これはりんかい線の東京テレポート駅の光景である。説明しないと、どこが錯視なのか分からないことと思う。壁面の正方形の構造では、内側の正方形部分が凹んでいる。間接照明で下から上方向に照らされているので、正方形の下側に影が生じる。普段私たちは上から下への照明に慣れているため、この様な明暗分布では中央部分が凸部と判断してしまう。ほとんどの利用者は、錯視に気付かずに駅を利用していると思われる。

(株)エス・デー¹⁾という名前に馴染みが無い方は多いだろうが、「TrickArt (トリックアート)」は、同社の登録商標である。「トリックアート美術館」は各地に存在しているが、「トリックアートコンビニ」が最近(2018年9月)駅の改札口の中に出現した。Fig. 3は、西武池袋線江古田駅の改札内にある店舗の床面である。台形アナモルフォーズが描かれていて、1階下のフロアでパンダが生活している様に見える。この店では、店の外にもアナモルフォーズが描かれていて、

いろいろ楽しむことができる。西武鉄道とファミリーマートが共同で運営している販売店「トモニー」のサイト²⁾に、プレス発表が掲載されている。

駅の利用者向けに、錯視を積極的に活用したことが最近話題になっている。メディアで大きく取り上げられているのでご存知の方も多いいことだろう。Fig. 4は、京急空港線の羽田空港国際線ターミナル駅の通路に新設された案内サインである。国際線に到着し、改札口に入る利用者の正面に見える床面に描かれている。こちらも台形アナモルフォーズだが、長方形の案内看板が置かれている様に見える。電鉄会社による2019年1月28日のプレス発表³⁾から、詳しい情報を入手することができる。

あまりに見事な台形アナモルフォーズなので、利用する方向から撮影した写真だけでは、どの様に描かれているのか見当がつかないことと思う。Fig. 5は、通路のサインを反対側から撮影した様子である。改札口に向けて大きく歪んだ台形が描かれていることが分かる。ぜひ多くの方に体験していただきたい。

以上、駅で出会うことができる錯視を紹介した。ここで取り上げているのは全体のごく一部であり、多くの情報が共有され、錯視を楽しんでいただきたいと思う。

参考文献

- 1) (株)エス・デー：<http://www.trickart.co.jp/>
- 2) 「トモニー」のサイト (2018年9月27日)
http://www.family.co.jp/company/news_releases/2018/20180927_01.html
- 3) 2019年1月28日付 京急電鉄プレス発表
https://www.keikyu.co.jp/company/news/2018/20190128HP_18221KK.html